

□ はじめに

◆本書のねらいと特色

本書は、「英文をより正確に読めるようになりたい」と考えている受験生を対象に、高校でのリーディングの授業と、大学入試の読解問題との橋渡しをするために編集された問題集です。最近の入試問題は、以前と比べて英文が長文化し、また客観式の設問が増えたこと也有り、どうしても「速く読む・設問を解く」ことばかりに目が向いてしまい、「細かいところはどうでもいい」といった発想の受験生が増えているように思います。そのため、英文を丁寧にきちんと読むというあたりまえの作業がついおろそかになります。高校入試レベルの英文なら「ざっと読んで大意をつかむ」という方法でも切り抜けられる場合は多いでしょうが、東大・京大をはじめとする難関国公立大学や、大量の英文を読ませてその内容に関する設問が出題される私立大学の入試では、英文に含まれている語彙レベルが高かったり、内容が抽象的であったりということに加えて、「読解のための文法理解」も欠かせません。そこで、本書では近年、実際に大学入試に出題された英文の中から「読みづらい部分」だけを抜き出して、そこに含まれている文法項目別に、問題を整理・配列し、また英文の中でポイントとは無関係の部分を適宜省略するなどして、取り組みやすい長さに編集しました。こうすることで、長文に潜んでいる「難所」を集中的かつ効果的にしっかり読む訓練ができます。そして本書の特色は何といっても「解説の詳しさ」にあります。英語を読んでいるときに、どう頭を働かせるのか、文法の知識をどう活かすのかを、これでもかというくらい詳しく解説しました。

本書が皆さんの今後の学習のよいきっかけとなることを願っています。

◇第2版発行にあたって

本書は、2011年に『精密英文読解』の名称で刊行された後、2017年の大幅な改訂を機に『Intensive Reading』と書名を変えてご利用いただいてまいりました。この度、扱う文法事項の項目を増やすと共に、章立ての配列順序も見直して全23章構成とする増補改訂版の発刊の運びとなりました。引き続き多くの皆様にご利用いただけることを願っています。

(著者) 田上 芳彦

□ 問題編の構成

第1課　主語と動詞

1 基本例文

2 練習問題・補充問題

3 語句

1-1 Despite our knowledge that children whose language development is below the normal standard for their age are at very high risk of educational, social, and emotional problems, we still do not know exactly how helpless newborns essentially master their language in only four years. (早稲田大)

1-2 Those who complain about the low level of skill in writing and reading that is now attained by most graduates of our schools and colleges make the mistake of assuming that if these deficiencies were remedied, all would be well. They assume that if a person has learned to write well and read well, he or she will of course know how to speak well and listen well. That is simply not the case. (上智大)

1-3 As compared to movies, radio, and television, reading has certain unique advantages. Instead of having to choose from a limited variety made available to him by courtesy of the advertising sponsor or from the currently available pictures, the reader can select from the finest writings of the present or past. (明治学院大・大妻大)

1-4 People whose occupation it is to judge writing and recommend how it should or should not be read often seem to require a tidiness of language, a measurable consistency in the arrangement of words. (首都大学東京)

1 factor 「要因」／ time management 「時間の管理」／ concentration 「集中力」
2 struggle to ~ 「しようと努力する」／ survive 「生き延びる」／ obtain 「得る」
3 constant 「常にある」
4 do without ... 「~なしで済ます」／ household 「家庭」
5 embrace 「抱擁する」
6 sign 「しるし」／ honesty 「正直さ」
7 deficiency 「欠陥」／ remedy 「改善」
8 by courtesy of ... 「~の好意で」
9 tidiness 「整然性」／ measurable 「はっきりとした」／ consistency 「一貫性」

① 基本例文 各課のポイントを含む1～2行程度の英文を使って、「文法事項」と「英文を読むときの頭の働き方」を確認します。

② 練習問題・補充問題 入試に出題された読解問題から、各課のポイントを学習するのに適する英文を選び、必要に応じて一部改変または省略をして収録しています。必ず取り組んで欲しいものを「練習問題」、余力があれば取り組んで欲しいものを「補充問題」としました。

③ 語句 英文の中の難解な語句には注をつけています。

□ 問題を解くにあたって

「最初のうちはどんなに時間をかけてもいいから曖昧な読み方をせずにきちんと考えて読む」ようにしてください。また、必要であれば辞書を使い、「必ず鉛筆を持って紙の上に訳文を書く」ことを心掛けてください。なお、英文に下線部があるものは下線部が日本語訳の対象となる部分です。下線部がない部分は英文全体を日本語に訳してください。

□ 解説編の構成

① テーマ解説

その課に関連した文法事項の中で、「英文を読む」という作業に必要なポイントをピックアップして詳しく解説しています。

② 基本例文解説

「問題編」の左頁にある「基本例文」の読み方、頭の働きかせ方、を詳しく解説しています。いきなり結論を提示することをなるべく避け、いろいろな読み方の可能性を考えながら、「英文を読むときに無意識に行なっている思考プロセスの文字化」に努めています。

③ 構文のポイント整理

「類似項目や紛らわしい形などをまとめて整理・比較対照」し、
その「識別方法」等を解説しています。

④ 構文の展開予測

英文を途中まで読んだ段階で、「その後にどのような形が続く可能性があるのか」を「文法的な観点から」解説しています。

⑤ 構造図

構造が複雑な英文は、ビジュアル的にわかりやすくなるよう「構文を立体的に図解」し、「修飾関係等を図示」しています。

□ 目 次

第1課	主語と動詞	8
第2課	第5文型	10
第3課	意味上の主語	12
第4課	独立分詞構文	14
第5課	前置詞 + 関係詞 + to	16
第6課	関係詞 (1) 関係詞連鎖	18
第7課	関係詞 (2) 連鎖の主格省略	20
第8課	関係詞 (3) (代) 名詞 of 関係詞	22
第9課	関係詞 (4) 二重限定	24
第10課	関係詞 (5) その他	26
第11課	-ever	28
第12課	倒置 (1) 否定語 + V S	30
第13課	倒置 (2) M V S	32
第14課	倒置 (3) if の省略による倒置	34
第15課	倒置 (4) O S V	36
第16課	倒置 (5) So [Such] ... that	38
第17課	比較 (1) 否定 + 比較級	40
第18課	比較 (2) no more [less] ... than	42
第19課	比較 (3) the + 比較級	44
第20課	比較 (4) その他	46
第21課	強調構文	48
第22課	否 定	50
第23課	その他 (分詞構文の強調形, hence + 名詞句など)	52
付録	ミニ英文法用語集	54
	単語・熟語リスト	58

□ 構文のポイント整理 一覧 (解説編に掲載)

(1) 名詞+that 節	4
(2) how 節の内側	7
(3) 代不定詞	19
(4) 3種類の used to の識別	21
(5) ダッシュの役割	45
(6) <what +名詞> で what 節が始まる場合	56
(7) <-ing+前置詞> が文頭にある場合	72
(8) not only が文頭にある場合	86
(9) S is -ing ~	110
(10) 英語で「原形」を使える場所	123
(11) 準【疑似】補語とは	137
(12) [as, how, so, too] +形容詞+ a(n) +名詞	152
(13) 「～人中…人」の表現方法	153
(14) number of … が主語になる表現	154
(15) than の直後に動詞がある場合	162
(16) <the 比較級> が3つ登場した場合	171
(17) as … as の直後に動詞がある場合	181
(18) A と B を対等の関係で並べる場合	182
(19) <It is … that ~> の構文の可能性	189

□ 解説編で使用している主な記号 □

S : 主語

V : 述語動詞

O : 目的語

C : 補語

M : 修飾語

p.p. : 過去分詞

例 : 例文

→ : 参照箇所

◆カッコについて

() : 「省略可能なもの」を示します。

[] : 「言いかえ可能なもの」を示します。

第1課 主語と動詞



◇◇ 基本例文 ◇◇

1 Of all the factors in time management, **concentration** *is* the most important.

2 In many parts of the world, for millions of people who are struggling to survive, **obtaining** food for tomorrow's meal *is* a constant problem.

3 Among the things we can hardly do without, **newspapers and TVs** *are* so common that they can be found in almost every household.

4 On New Year's Eve, when the ringing of bells announces that the new year has arrived, **some people** *shake* hands, and **others** *kiss* and *embrace*.

5 **People** from foreign countries who believe that looking someone straight in the eye is a sign of honesty *may think* that the Japanese are liars.

語句

1 factor 「要因」／ time management 「時間の管理」／ concentration 「集中力」

2 struggle to - 「-しようと努力する」／ survive 「生き延びる」／ obtain 「得る」
constant 「常にある」

3 do without ... 「…なしで済ます」／ household 「家庭」

4 embrace 「抱擁する」

5 sign 「しるし」／ honesty 「正直さ」

2 deficiency 「欠陥」／ remedy 「改善する」

3 by courtesy of ... 「…の好意で」

4 tidiness 「整然性」／ measurable 「はっきりとした」／ consistency 「一貫性」



第1課 主語と動詞

○ テーマ解説 ○

英文読解の第1歩は、文中の S と V を正しく把握し、V の語法から V の後に続く形を予想して文を読み進めていくこと。これは英文が複雑になっても変わらない。この課では S V の探し方を中心に学習する。

◆ S (主語) になれるもの

- ① 主語になれるものは、原則、**名詞の働きをする語句**。具体的には、名詞、代名詞、名詞節 (what 節など)、動名詞など。
- ② 文頭にある〈前置詞+名詞〉のかたまりは、**副詞句になり、主語にはならない**。
- ③ 主語は1つとは限らない。**複数の主語が並列**されている場合もあるので注意が必要。また、主語が直後で言いかえられていたり (同格)、主語の後に挿入がある場合もある。

◆ V (述語動詞) になれるもの

- ① V になれる動詞の活用形は、**現在形と過去形のみ**。その他の活用形 (原形、過去分詞、現在分詞) は単独で V にはなれない。
- ② 助動詞 (will, can, may など) + 原形、という組み合わせも V と考える。同様に、現在 [過去] 進行形 (be + ing)、現在 [過去] 完了形 (have [had] + p.p.) なども1つの V とみなす。

◆ S → V の発見

以上のことから、S → V を発見する上で注意することは次のとおり。

- ① 1つの S に対して必ず V も1つ、が原則。
- ② S が1つで V が2つ (または S が2つで V が1つ) ということはない。
たとえば、S V, V とか S, S V という形は原則ない。そのような場合は、等位接続詞が間に置かれ S V and V とか S and S V のようになる。
- ③ SV が倒置を起こしている可能性もあるので注意する。
倒置については、**第12~16課**で詳しく学習する。

◆ 形容詞句と副詞句

2語以上から成る、意味を持ったかたまりを**句**という。句は文中での働きによって「名詞句」「形容詞句」「副詞句」に分類できる。

「名詞句」 句全体が1つの名詞の働きをする
 「形容詞句」 前にある名詞を修飾する、または C (補語) になる
 「副詞句」 名詞以外を修飾する

例 The rest of the students left the next day. (残りの生徒は翌日出発した)

名詞句 形容詞句 副詞句

◇◇ 基本例文 ◇◇

① Of all the factors in time management, **concentration** is the most important.

文頭の Of all the factors は〈前置詞 + 名詞〉の形だから副詞句になり、文の主語にはならない。次の in time management の time は元来は名詞だが、ここでは形容詞的に management にかかって time management (時間の管理) という名詞句を作っている。この名詞句も前に in があるから主語にはならず、全体が直前の all the factors を修飾する形容詞句として働く。concentration (集中力) が前置詞のつかない名詞でこれが文の主語。is は現在形なので述語動詞。the most important が補語。

訳例 あらゆる時間管理の要因の中で、集中力が最も重要である。

② In many parts of the world, for millions of people who are struggling to survive, **obtaining** food for tomorrow's meal is a constant problem.

In many parts of the world は〈前置詞 + 名詞〉が2つ連続している形で主語にはならない。次の for millions of people も同様。ただし直前にカンマがあるのでここは副詞句として後に出る述語動詞 is にかかる。関係代名詞 who から survive までが形容詞節になって people を修飾。obtaining food は obtain (V) food (O) (食物を得る) という形の obtain が動名詞になった形で、動名詞は名詞の働きをするので、これが文の主語。for tomorrow's meal は〈前置詞 + 名詞〉で直前の food にかかる形容詞句。直後の is が現在形でこれが述語動詞。a constant problem が補語。

訳例 世界の多くの地域で、必死で生き延びようとしている何百万人もの人にとって、翌日の食事のための食物を手に入れることは常にある問題である。

③ Among the things we can hardly do without, **newspapers and TVs** are so common that they can be found in almost every household.

Among the things は〈前置詞 + 名詞〉で副詞句。次の we can hardly do without は、直後に前置詞 without の目的語がないことから、we の直前に関係代名詞の目的格を補って考える。newspapers and TVs が主語。are が現在形で述語動詞。次の so common that ... は〈so ... that 構文〉で、形容詞 common が are の補語。that は接続詞。they can be ... の they は newspapers and TVs を指し、can be found は第3文型の受け身の形。in almost every household は副詞句。

訳例 私たちが、ないとほどやつていけない物の中で、新聞とテレビは大変普及していて、ほとんどすべての家庭にある。

④ On New Year's Eve, when the ringing of bells announces that the new year has arrived, **some people** **shake** hands, and **others** **kiss** and **embrace**.

On New Year's Eve は〈前置詞 + 名詞〉で副詞句。次の when は接続詞で時を表す副詞節をまとめている。the ringing of bells が節内の主語。次の announces がそれを見る述語動詞。次の that は announces の目的語となる名詞節をまとめる接続詞。that 節内は the new year が主語、has arrived が述語動詞。その後にある some people shake が主節の主語と述語動詞。次の and の後にある others kiss and embrace も SV で、この2組の SV を1つ目の and がつないでいる。

訳例 大晦日の日は、鐘の鳴る音が新しい年の到来を告げると、手を握り合う人もいれば、キスをして抱き合う人もいる。

単語・熟語リスト

本書に出てきた単語・熟語を課ごとにまとめました。

アルファベット順に並んでいます。

予習・復習に活用しましょう。



第1課

❖❖ 基本例文 ❖❖

- concentration 集中力
- constant 常にある
- do without ... なしで済ます
- embrace 抱擁する
- factor 要因
- honesty 正直さ
- household 家庭
- management 管理
- New Year's Eve 大晦日
- obtain 得る
- shake hands 握手をする
- sign しるし
- struggle to - -しようと努力する

- survive 生き延びる
- ❖❖ 練習・補充問題 ❖❖**
- as compared to と比べて
- attain 得る
- available 手にはいる
- by courtesy of の好意で

- complain 文句を言う
- consistency 一貫性
- deficiency 欠陥
- despite にもかかわらず
- development 発達
- emotional 感情的な
- essentially 本質的に
- helpless 無力な
- limited 限られた
- measurable はっきりとした
- newborn 新生児
- normal 正常な
- occupation 職業
- recommend 推薦する
- remedy 改善する

- risk 危険
- tidiness 整然性
- unique 独特の

第2課

❖❖ 基本例文 ❖❖

- breathe 呼吸する
- jam-packed ぎゅうぎゅう詰めの
- objection 反対理由
- refer to A as B Aのことを B だと言う
- seriously injured 重傷を負った
- vet 獣医

❖❖ 練習・補充問題 ❖❖

- adolescent 若者
- announce 公言する
- assumption 仮定
- career 職業
- chance 可能性
- character 性格
- conduct 行う
- contemplate 熟考する
- emotion 感情
- employer 雇用者
- expert 専門家
- expression 表情
- for nothing 無償で
- give ... a second thought …をよく考える

- interpret 解釈する
- investigation 調査
- lifelong 生涯の
- magnificent すばらしい
- philosopher 哲学者
- poet 詩人
- praise ほめる
- rewarding 報われる
- scholar 学者

- sculptor 彫刻家
- trade 貿易

- ultimate 最終的な
- universal 普遍的な
- unrealistic 非現実的な
- urge 強く促す

第3課

❖❖ 基本例文 ❖❖

- collapse 崩壊する
- get involved 介入する
- government 政治
- helpless 無力の
- hostage 人質
- initially 当初は
- innocent 無実な
- religious 宗教的な
- struggle 闘争
- the Middle East 中東
- waste 廃棄物

❖❖ 練習・補充問題 ❖❖

- acquire 獲得する
- aspect 側面
- atmosphere 大気
- author 著者
- basically 基本的に
- behavior 行動
- cohesive まとまりのある
- complicated 複雑な
- conscious 意識して：意識的な

- consensus 同意
- consist of から成る
- continue 続ける
- custom 慣習
- dimension 面
- go for …を支持する
- iceberg 氷山
- identify 同一視する
- intellectual 知的な